いのちまいにちあたらしい

■楽曲データ

歌詞：喜多内十三造　作詞

楽曲：林秀茂　作曲

発表：仏教音楽研究所　1985 年

初演：「本堂昭和御修復完成慶讃法要祝賀の夕べ」 1985 年 5 月

初出：『いのちの唱』 浄土真宗本願寺派仏教音楽研究所　1985 年

管理番号：M0561

■創作の経緯

1985（昭和 60）年、「本堂［本願寺阿弥陀堂］昭和御修復完成慶讃法要」に併せて開催された「祝賀の夕べ」のテーマ曲として発表。

■校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第４巻収録

底資料：『佛教讃歌』 浄土真宗本願寺派本願寺出版社　1992 年

比較資料：－

校訂の詳細：特記事項なし

■解説

1985（昭和 60）年５月、「本堂昭和御修復完成慶讃法要」が 10 日間にわたりお勤めされました。この法要期間中に、さまざまな企画や催しがありましたが、そのひとつとして、「祝賀の夕べ」が８日間持たれました。中でも、全国の宗門関係合唱団（延べ 20 団体・約 400 名）が初めて京都に集まり、連日、交互にコーラスによる仏教讃歌を発表いたしました。この祝賀の夕べのテーマ曲として作曲されたのが、この《いのちまいにちあたらしい》です。1984（昭和 59）年８月に作曲され、この祝賀の夕べで初めて発表されました。

◆作詞・作曲について

作詞の喜多内十三造さんは、1927（昭和 2）年、京都府に生まれ、プロデューサー・作詞家として活躍されました。詩集に『街を歩く太陽』があります。この詩は、大変平易な言葉で、賜ったいのちの尊さを朝夕の情景に重ねて綴っています。

作曲の林秀茂さんは、1950（昭和 25）年、徳島県に生まれ、作曲・編曲やキーボード奏者として活躍されています。仏教音楽研究所が企画・制作した CD『響流十方』『ほほえみとともに』にも参加していただいています。この曲はアフタービート（裏打ち）のポップス調で作曲されています。明るいメロディーで、親

しみやすく、また後半部分はダイナミックに盛り上がるように作曲されています。女声二部合唱として歌いつがれていますので、挑戦してみてください。斉唱のときは、ソプラノのパートを歌ってください。

なお、『佛教音楽』No.32 に、「心と共鳴する音楽」というタイトルで作曲者の巻頭言が掲載されています。そのなかに、「あっという間に消えてゆく音であるがゆえに意味の深い『音』。それは人の命をも思わせるものがあります。」という文章があります。作曲者の音楽に対する姿勢が現われていて、曲を理解する上で大変参考になります。

◆歌い方について

①出だしの音に注意しましょう。4拍目の裏からでますが、遅れないように。

②出だしの音は力まずに豊かな声で歌いましょう。

③ 14 小節のシが下がらないように。

④ 16・17 小節は、急ぎ過ぎないこと。

⑤ 22 小節から最後までは、徐々に気持ちを盛り上げていきましょう。

⑥ことに、28 小節から 32 小節にかけては力強い声で、一音一音を確かめるように歌ってください。

⑦ 32 小節の「い」の発音を柔らかく、のびのびと喉を開いて歌いあげましょう。

⑧ 43・44 小節のアルトのパートは、音の変化に十分注意して歌いましょう。

⑨ 44 小節はソプラノ・アルト共に決然とした気持ちで、少しアクセントをつけて歌ってみましょう。

⑩ 45 小節のフェルマータの音も喉を開いて十分に伸ばしましょう。

◆用途など

日常の例会などはもとより、明るく力強い歌なので、降誕会や初参式などでも歌っていただきたい曲です。

解説執筆：大分哲照（御堂演奏会指揮者　福岡教区西嘉穂組明圓寺住職）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」No.37（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第 164 号収録）を加筆・修正の上、転載。

Copyright：Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.